

(様式2) 新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		山地治山		路河川名等	—		
事業毎の通番		11	市町村名	白馬村	箇所名(ふりがな)	滝ノ沢(たきのさわ)	
事業概要	事業目的	平成27年1月30日に滝ノ沢の左岸山腹が崩壊し、土砂とともに流出した雪崩状の雪が下部の鋼製谷止工(JR東日本施工)の袖部を破壊し、流れ出した雪の一部はJR大系線まで達した。 崩壊地直下には多量の不安定土砂が堆積している上に、当流域の上流部には新たな崩壊も確認され、今後、降雨等による土砂の流出や山腹崩壊の拡大が懸念されるため、溪間工及び山腹工を施工し、直下部にあるJR大系線等の保身を図る。					
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1地域防災力の向上		事業実施の根拠法令等	森林法		
	関連する事業、計画等	JR東日本による自営の防災工事【H27】 砂防事業(姫川砂防事務所)					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	鉄道(JR大系線)400m、村道420m、農地3ha、農場1棟、姫川(一級河川)					
	着手年度	平成28年度	事業期間	2年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	平成29年度	費用対効果	1.85	国庫	その他	県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	法枠工2,550㎡			118,800	59,400	53,460 5,940
	年度事業内容(主な工種)	法枠工1,250㎡			62,400	31,200	28,080 3,120
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	JR大系線、村道、農地、農場、一級河川の保全				
		間接的効果(定量的・定性的)	JR大系線等の通行の安全確保				
評価の視点	必要性	○人家戸数	1戸			評価	
		○公共施設	鉄道(JR大系線)、村道			B	
		○保安林	保安林率100% 土砂崩壊防備保安林 S36年10月9日				
	重要性	○過去の災害履歴	・平成7年7月豪雨災害 ・平成27年1月融雪災			評価	
		○交通遮断による地域経済への影響	鉄道(JR大系線)、村道1路線			A	
	効率性	○費用便益比(B/C)	1.85			評価	
○事業期間		2年間(H28~H29)			B		
○工法等の比較検討		あり					
緊急性	○流域の総合調整	JR東日本、姫川砂防事務所と調整中			B		
	○流域の地形、地質	第3紀層、地すべり地形なし					
	○平均渓床勾配(平均山腹勾配)	渓床10°以上(山腹30°以上)					
	○下流の堰堤等の整備状況	谷止工(JR自力施工)2個 ポケットあり					
計画熟度	○危険地区	土砂災害防止法指定区域(警戒区域)			C		
	○事業情報の共有	市町村、JR東日本、姫川砂防事務所との情報の共有化が図られている。					
	○地域の取り組み	地元要望あり					
部意見	○地域の合意形成	事業目的について合意形成が図られている。			総合評価		
	平成27年1月に崩壊し、土砂が鉄道まで流下した。放置すれば山腹が拡大し、再被災の恐れが高ことから、対策工を行う必要がある。	行政改革課意見	融雪、豪雨等による山腹崩壊での土砂流出が懸念され、重要性が認められる。	○		B	

位置図

平面図

事業概要説明図表

計画地全景

将来計画箇所

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	平成7年7月豪雨災害によりJR大系線が被災したため、JR東日本が自力の防災工事として谷止工2個を施行した。平成27年1月の融雪による被災を受けて、JR東日本から上部保安林における土砂流出対策について強い要望がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	保全対象である「白馬SPF農場」(養豚場)は地域の重要な産業であり、アクセス道路となっている村道の安全確保に対する強い要望を受けて、平成27年5月に白馬村から計画要望が出された。
③事業説明等の経緯	平成27年7月に白馬村へ治山事業計画立案の説明を行った。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	平成27年11月にJR東日本、姫川砂防事務所へ治山事業計画について説明・調整を行った。(砂防事業計画「滝ノ沢(梨平)」と調整中)
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	JR大系線と村道の通行を確保する。山腹崩壊地の森林への復旧に努める。
⑥地域活性化への影響と配慮	JR大系線は地域住民の生活の足として、また、多くの観光客が利用するなど地域の重要な交通手段となっており、通行の安全を確保することは、地域の活性化に大きく寄与するものと考えられる。
⑦その他	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 43' 50" 東経:E 137° 53' 19"